

【速報】 鉄器の交易なりわいか「淡路市 舟木遺跡」

近くの五斗長垣内遺跡を上回る

新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土

2017.1.26. 神戸新聞他の朝刊より

淡路島北部 弥生後期の山間地集落遺跡群の中心集落「淡路市 舟木遺跡」

近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土

2017. 1. 26. 神戸新聞他の朝刊より



「海の民」との関係も推認

弥生時代後期の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、新たな鉄器生産工房跡と、手工業品を生産した可能性のある工房跡、鉄器57点などが見つかった。兵庫県と同市の両教育委員会が25日発表した。



多数出土した小型鉄器

鉄器の交易なりわいか

淡路に近畿最大の工房跡



工房跡発見、近畿最大か
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

(記事拡大版 file : <http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR2.pdf>)

2017.1.26. 関西の新聞朝刊各紙に淡路島で 近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土したと大々的に報じられた。

アウトインを神戸新聞 Next の記事から拾うと下記の通り。

◎ 神戸新聞 Next

近畿最大？淡路に鉄器工房跡 弥生時代の舟木遺跡 2017/1/25 20:30

兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、新たに鉄器生産工房跡と、手工業品を生産した可能性のある工房跡、鉄器57点などが見つかった。兵庫県と同市の両教育委員会が25日発表した。

過去に同市で見つかった近畿最大の鉄器生産遺跡「五斗長垣内遺跡」（同市黒谷）を上回る規模と推定され、専門家は「弥生時代、淡路島が鉄器の製作や保有の地として有力視されていたことを裏付ける発見だ」と指摘する。

同時に出土した土器の年代から、工房があったのは2世紀後半とみられる。

見つかったのは4棟の大型の竪穴建物跡。うち3棟は敷地が円形で直径が10メートルを超える大型で、うち1棟から4基の炉の跡が確認された。柱が外側に寄り中央部が広いことから、作業をする空間だったと想定される。

また4棟全てから鉄器製作に使ったとみられる石器を多数発見。鉄器は計57点あり、鍛冶関連のほか針状鉄器など小型工具が出土した。

針状鉄器は小さいものでは長さ4ミリ、幅1ミリで、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究



炉の跡が確認された工房の遺構。

土が赤っぽく焼けている

＝淡路市舟木（撮影・内田世紀）

センターの村上恭通センター長は「小型工具を使って何らかの手工業品を生産する大規模な工房群が存在した可能性がある」と指摘する。作られた物は出土していないが、木製品や皮革製品などが想定できるという。

2009年に工房12棟と鉄器127点が見つかった五斗長垣内遺跡では、鉄鏃（てつぞく）（矢尻）などの武器類が多く出土した一方、舟木では明確に武器と認められるものはなかった。

二つの集落はわずか約6キロの距離でほぼ同時期に存在していたが、生産物に違いがあることが判明。

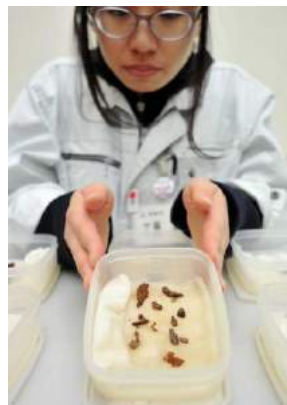
五斗長垣内が消滅した後も舟木で鉄器生産が続けられていたことも分かった。（切貫滋巨）



近畿で最大規模とみられる鉄器生産跡が見つかった

舟木遺跡周辺。現場は木々に囲まれている

＝淡路市舟木（撮影・内田世紀）



多数見つかった工具やナイフとみられる小型鉄器



【舟木遺跡】 弥生時代後期～末期（1世紀～3世紀初頭）に存在したとみられ、1966（昭和41）年に発見された。面積は推定約40万平方メートル。91年の調査で見つかった出土物が、古代の中国で製作された青銅製の中国鏡の破片であることが明らかになっていた。

弥生時代後期 国内最大級の鍛冶工房村と報じられた「五斗長垣内遺跡」。それを上回る鍛冶工房跡が同じ津名丘陵のすぐ近く、北淡震災記念館など西海岸を見下ろせる淡路市舟木の標高200m弱の丘陵の上 舟木遺跡から出土したという。 淡路島の丘陵地から弥生後期の鍛冶工房が出土した!! 凄いと思いながらも やっぱり出たと。

五斗長垣内遺跡一つの点しがなく、新しい展開が見えなかった淡路島の鉄生産工房が線につながり、広がってゆく。さらなる調査で、淡路島の関与が明らかになれば、ブラックボックスだった卑弥呼の時代の畿内への鉄器流通経路がワリヤーになってくるだろうか・・・ そうなれば、国生みと大和王権誕生への道が見えてくる。うれしい舟木遺跡での鍛冶工房の出土だ。

また、舟木遺跡は五斗長垣内遺跡を発掘調査され、同時にこの津名丘陵地に広がる淡路島山間地集落遺跡群の発掘調査を進められている淡路市教委伊藤宏幸氏が、その中心的な遺跡として注目されてきた遺跡。

「淡路島北部の丘陵地に広がる弥生後期の山間地遺跡群は稲作を行っていないが、弥生の高地性集落とは性格を異にする生産工房群の色彩が濃い遺跡群。そしてその中心的存在が舟木遺跡」と何度か伊藤氏の講演をお聞きした。

「この山間地集落群の中で、鍛冶工房跡が出ればなあ・・・」との思いでいつも気になっていた淡路島の山間地集落遺跡群。その中心と聞く舟木遺跡から鍛冶工房が出た。 しかも この舟木遺跡は弥生の終末期 卑弥呼の時代には消滅するのに その時代にも続いた遺跡と聞く。卑弥呼の時代につながる鍛冶工房跡が淡路島から出土した。淡路島が日本の国づくりに関与したのかもしれないと考えたと胸ワクワク。。

2月5日に北淡震災記念館で発掘調査の報告会があるという。ぜひ参加し、また、できれば舟木遺跡も見てこようと考えています。

◎ なお この淡路島の山間地集落遺跡群や舟木遺跡・五斗長垣内遺跡について 昨年5月大阪で伊藤宏幸氏が講演の超高記録並びにレジメ資料の整理して、参考掲載しています。

今回発表された舟木遺跡から鍛冶工房跡出土以前の昨年の資料ですが、淡路島の弥生時代後期 津名丘陵に現れた五斗長垣内遺跡や舟木遺跡などを含む山間地集落群の紹介並びに五斗長垣内遺跡から出土した鍛冶工房での具体的な鉄器づくり作業の復元検討等今回の舟木遺跡での鍛冶工房出土との関連を考えるベース参考資料です。

《 参考 弥生時代の後期 津名丘陵周辺に出現した山間集落群 》

淡路市教委 伊藤宏幸氏 2016. 5. 28. 大阪文化博物館講演 レジメ資料& スライドより整理

津名丘陵周辺 稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持たぬが、生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。 島では海岸よりも山間地を貫く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、流通の拠点集落と考えられている

五斗長垣内遺跡も山間集落群の一つ また舟木遺跡は終末期までも続く山間地集落遺跡の中心とみられている。



1. 参考 和鉄の道・Iron Road 2016

【スライド動画】 大阪弥生文化博物館 2016 年春季特別展第3 回考古学セミナー

淡路市教委 伊藤宏幸氏講演「淡路島 五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」

聴講 まとめ by Mutsu Nakanishi 2016. 5. 28.

弥生後期の五斗長垣内遺跡 <発掘調査と実証実験で見えてきたこと>

1. 弥生後期の五斗長垣内遺跡ではすでに高温鍛冶が行われていた可能性
2. 弥生後期の五斗長垣内遺跡の位置付け
3. 弥生後期 津名丘陵周辺に現れた淡路島の生産工房を有する山間集落群の周辺流通ネットワークに注目
3. 弥生後期の五斗長垣内遺跡 <発掘調査と実証実験で見えてきたこと 聴講まとめ

◆ <http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607awaji00.htm>

2. 参考資料【1】

淡路文化資料館 淡路市教育委員会 伊藤宏幸氏講演資料 2015.12.12.

「淡路島の弥生時代と山間地集落 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡」

◆ <http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR3awajiregime.pdf>

3. 参考資料【2】

2017.1.26. 朝刊各紙報道ファイル 「淡路島舟木遺跡で 弥生後期の鍛冶工房出土」

◆ <http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR1.pdf>

新たに淡路島で 弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡が出土した舟木遺跡

2017.1.26.. 朝刊各紙 淡路島 舟木遺跡の記事 ファイル インターネットより

◎ 読売新聞 淡路島で新たな鍛冶工房跡、弥生期建物跡と鉄器

兵庫県淡路市の弥生時代後期（2世紀中頃～3世紀初め）の舟木遺跡で、鉄製の工具などを作った鍛冶工房とみられる建物跡4棟と鉄器57点が見つかり、市教育委員会が25日、発表した。淡路島北部が、近畿に鉄器文化が広まっていく際の中継地や生産拠点として大きな役割を果たしていた可能性を示しているという。

遺跡は標高約150メートルの丘陵地にあり、推定面積は約40ヘクタール。

2009年に約6キロ先の弥生時代後期の五斗長垣内遺跡（淡路市）で工房跡12棟や鉄器が見つかり、舟木遺跡も生産地だった可能性が高いとして、昨年10月から尾根の7か所を発掘していた。今回確認されたのは竪穴建物跡4棟。3棟は直径

10メートル前後と通常の竪穴住居より大きく、うち1棟には炉の跡があった。周囲で鉄器も見つかっており、市教委はいずれも大型の鍛冶工房だったとみている。



◎ 朝日新聞 淡路・舟木遺跡、弥生鉄器の大産地か 工房が集中

兵庫県淡路市の舟木（ふなき）遺跡で弥生時代後期～終末期（2世紀中ごろ～3世紀初め）の鉄器などの工房とみられる建物跡4棟や鉄製品が見つかった。市教委などが25日発表した。市内の弥生期の鉄器工房跡は、南西約6キロにある五斗長垣内遺跡（国史跡）に続き2カ所目。市教委は、淡路島北部には「邪馬台国時代」まで鉄器工房が集中し、舟木遺跡がその中心だった可能性もあるとみている。

舟木遺跡は淡路島北部の標高約150～190メートルの丘陵部にある。昨年10月からの調査で複数の場所を幅約2メートルの溝状に発掘し、直径10メートル前後の大型とみられる円形の竪穴建物跡3棟と、一辺約4・5メートルで角が丸い隅丸方形（すみまるほうけい）の竪穴建物跡1棟を検出した。その中から刀子（とうす、ナイフ）や細長い針状の鉄器、鉄を加工した際に出た鉄片などの鉄製品計57点と、ハンマーとして使われた敲石（たたきいし）などが出土。円形建物跡の1棟では、鉄を木炭で熱し、床面が赤く変色した炉の跡も確認した。

弥生時代終末期の溝からは、祭祀（さいし）に使われたとみられる多量の土器、タコつぼ、ミニチュア土器なども見つかり、付近に祭殿や首長墓など特別な施設があった可能性があるという。

◆五斗長垣内遺跡では鉄器工房跡が12棟発見され、弥生時代では最大規模の鉄器生産遺跡として注目された。舟木遺跡の面積は五斗長垣内遺跡（約3ヘクタール）をはるかに上回る約40ヘクタール。住居群など多くの建物群もある可能性があり、市教委は来年度以降も発掘調査を続ける方針だ。

市教委社会教育課の伊藤宏幸課長は「発掘したのは舟木遺跡のごく一部。弥生時代後期、淡路島北部は近畿地方の一大鉄器生産地だった可能性があり、遺跡の実態解明をめざしたい」としている。

愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「ごく一部の発掘で工房や炉、多数の鉄器が出土したのを見ると、五斗長垣内遺跡よりも大規模な鉄器生産遺跡だった可能性が高い」と評価。

近畿の弥生時代遺跡に詳しい森岡秀人・奈良県立橿原考古学研究所共同研究員は「弥生時代、淡路島は大和（現在の奈良県）や河内（大阪府南部）にとって、西からの物資や情報を中継する『玄関口』だった。島北部で生産された鉄器は大和や河内、摂津（大阪府北部、兵庫県東南部）に運ばれたのでは」と推定する。



舟木遺跡の大型建物跡で見つかった
炉の跡＝兵庫県淡路市、水野義則撮影



舟木遺跡から出土した工具とみられる
鉄器（左）とナイフとみられる鉄器（右）
＝兵庫県淡路市、水野義則撮影

◎ 毎日新聞 淡路・舟木遺跡 新たな大型の鉄器工房跡 国内最大級か

弥生時代後期 鉄製品57点と工房含む竪穴建物跡4棟発見

兵庫県淡路市教委は25日、弥生時代後期の舟木遺跡（同市舟木）から大型の鉄器工房跡を確認したと発表した。遺跡中心部の状況を把握するため狭い範囲で溝（トレンチ）を掘って調査した結果、鉄製品57点と工房を含む竪穴建物跡4棟が見つかった。同遺跡全体の鉄器工房の規模が、南西約6キロにある国内最大級の鉄器生産集落で国史跡の五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡（同市黒谷）をしのぐ可能性があるとしている。舟木遺跡は約40ヘクタールの大規模な山間地集落遺跡。これまでに約5700平方メートルを調査し、弥生時代後期の竪穴建物跡10棟や土器、中国鏡の破片が出土しているが、鉄器工房は確認されていなかった。

2016年度は遺跡中心部の尾根沿いに7本の溝、計128平方メートルを掘り、弥生時代後期後半（2世紀後半）の竪穴建物跡4棟を確認した。3棟は直径10メートル前後の大規模な円形で、うち1棟から床が赤く焼けた炉跡4カ所が見つかった。もう1棟は四隅が丸い隅丸方形建物だった。

鉄製品は破片を含む57点で、明確な用途は分かっていないが、鍛冶に関連したものや、工具とみられる針状のものなど。鉄の加工に使った台石や砥石（といし）など石製工具42点や、祭事用と考えられる弥生時代終末期（3世紀初頭）の土器も出土した。市教委は、建物跡は鉄器生産工房と、鉄工具を使用した何らかの生産工房で、大規模な工房群の存在も想定できるとみている。

淡路島北部には弥生時代後期の遺跡群が集中。3ヘクタールの五斗長垣内遺跡からは127点の鉄製品が見つかった。同遺跡では終末期の土器は出土しておらず、同遺跡の消滅後も鉄器生産を続ける集落が存在していたことが裏付けられたとしている。市教委は「淡路島北部が鉄器の製作や保有で近畿でも極めて重要な地域だったのではないかとみており、「古事記」で国生みの地として伝わる淡路の古代史を究明するため、舟木遺跡の重点調査を続ける。

◎ 神戸新聞 Next

近畿最大？淡路に鉄器工房跡 弥生時代の舟木遺跡

2017/1/25 20:30

兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、新たに鉄器生産工房跡と、手工業品を生産した可能性のある工房跡、鉄器57点などが見つかった。兵庫県と同市の両教育委員会が25日発表した。

過去に同市で見つかった近畿最大の鉄器生産遺跡「五斗長垣内遺跡」（同市黒谷）を上回る規模と推定され、専門家は「弥生時代、淡路島が鉄器の製作や保有の地として有力視されていたことを裏付ける発見だ」と指摘する。

同時に出土した土器の年代から、工房があったのは2世紀後半とみられる。

見つかったのは4棟の大型の竪穴建物跡。うち3棟は敷地が円形で直径が10メートルを超える大型で、うち1棟から4基の炉の跡が確認された。柱が外側に寄り中央部が広いことから、作業をする空間だったと想定される。

また4棟全てから鉄器製作に使ったとみられる石器を多数発見。鉄器は計57点あり、鍛冶関連のほか針状鉄器など小型工具が出土した。

針状鉄器は小さいものでは長さ4ミリ、幅1ミリで、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「小型工具を使って何らかの手工業品を生産する大規模な工房群が存在した可能性がある」と指摘する。作られた物は出土していないが、木製品や皮革製品などが想定できるといふ。

2009年に工房12棟と鉄器127点が見つかった五斗長垣内遺跡では、鉄鏃（てつぞく）（矢尻）などの武器類が多く出土した一方、舟木では明確に武器と認められるものはなかった。二つの集落はわずか約6キロの距離でほぼ同時期に存在していたが、生産物に違いがあることが判明。五斗長垣内が消滅した後も舟木で鉄器生産が続けられていたことも分かった。（切貫滋巨）

【舟木遺跡】 弥生時代後期～末期（1世紀～3世紀初頭）に存在したとみられ、

1966（昭和41）年に発見された。面積は推定約40万平方メートル。

91年の調査で見つかった出土物が、古代の中国で製作された青銅製の中国鏡の破片であることが明らかになっていた。



炉の跡が確認された工房の遺構。

土が赤っぽく焼けている

＝淡路市舟木（撮影・内田世紀）



近畿で最大規模とみられる鉄器生産跡が見つかった舟木遺跡周辺。現場は木々に囲まれている

＝淡路市舟木（撮影・内田世紀）

淡路島の弥生時代と山間地集落

～ 弥生時代の鉄器工房 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡 ～

淡路市教育委員会 伊藤宏幸

1. 淡路島の弥生時代の始まり

紀元前の特色ある青銅器文化

2. 弥生時代中期から後期へ 山の上の集落の急増

① 高地性集落と山間地集落

- ・ 高地性集落：海や平野を眺望できる山頂や丘陵上に営まれた集落。
武器と見られる大型の鏃や投弾等が出土し、環濠などの防御施設を設けることも見られることから、社会的緊張の中で、戦闘に備えた防御や軍事的性格が強い集落。
- ・ 山間地集落：高地性集落と同様に水田稲作経営が困難な標高の高い丘陵部に営まれる集落であるが、特段に軍事的性格に特化した様相はみられず、多様な生活様相を示す集落。
- ・ 高地性集落と山間地性集落として、淡路考古学研究会の岡本稔先生が呼び分けられた分類

② 山間地集落の実例

- ・ 五斗長垣内遺跡：鉄器生産、ベンガラ、イイダコ壺
- ・ 舟木遺跡：製塩土器、砥石、大型竪穴建物
- ・ 穴郷遺跡：イイダコ壺
- ・ 久野々遺跡：鉄器、製塩土器
- ・ 大坂遺跡：製塩土器・土製紡錘車
- ・ ニツ石・戎ノ前遺跡：朱・ベンガラ

3. 五斗長垣内遺跡（国史跡）

- ① 時期：後期初頭～後期末
- ② 立地：標高約200mの丘陵上
- ③ 面積：約2.5ha（南北約50m、東西約500mの尾根）
- ④ 遺構：鍛冶工房（23棟の竪穴建物跡の内、12棟の鍛冶工房建物跡、大型竪穴建物跡）
- ⑤ 遺物：鉄製品（板状鉄斧、鉄鏃、鑿、ほか、用途不明鉄片 多数）
石製鍛冶工具、ベンガラ付着石器、イイダコ壺、絵画土器、小型土器、など

4. 舟木遺跡

- ① 時期：後期初頭～終末（庄内）期
- ② 立地：標高150mの丘陵上
- ③ 面積：約40ha（石上神社を中心とする南北約800m、東西約500m）
- ④ 遺構：焼土坑を有する大型竪穴建物跡、製塩土器が出土する竪穴建物跡、焼土坑、など
- ⑤ 遺物：台石、叩石、砥石、製塩土器、大型器台（採集資料）

No.	遺跡名	立地 (標高)	時期				特徴	備考
			前期	中期	後期	終末期		
1	天神遺跡	15m					大陸系磨製石斧、石包丁	
2	横入遺跡	10m					水田	
3	楠本下林遺跡	17m						
4	佃遺跡	10m						
5	富島遺跡	5m					製塩土器	
6	畑田遺跡	5m					製塩土器	
7	貴船神社遺跡	5m					製塩土器	
8	五斗長垣内遺跡	200m					鍛冶遺構・鉄器・赤色顔料・イイダコ壺	
9	舟木遺跡	190m					大型竪穴建物跡・製塩土器	
10	山ノ神遺跡	197m					台石・鉄器	
11	袖ノ平遺跡	210m					大型竪穴建物跡・台石・鉄器・イイダコ壺	
12	穴郷遺跡	260m					イイダコ壺	
13	久野々遺跡	270m					袋状鉄斧	
14	おぎわら遺跡	260m					ヤリガンナ	
15	大坂遺跡	100m					製塩土器・土鏝	
16	行免形遺跡	105m					製塩土器	
17	禿山遺跡	122m					大型竪穴建物跡	
18	尼ヶ岡遺跡	130m						
19	塩壺西遺跡	60m					大型鉄鏝・焼土坑	
20	塩壺遺跡	40m						

※ 凡例 ...遺構を検出 ...遺物が出土

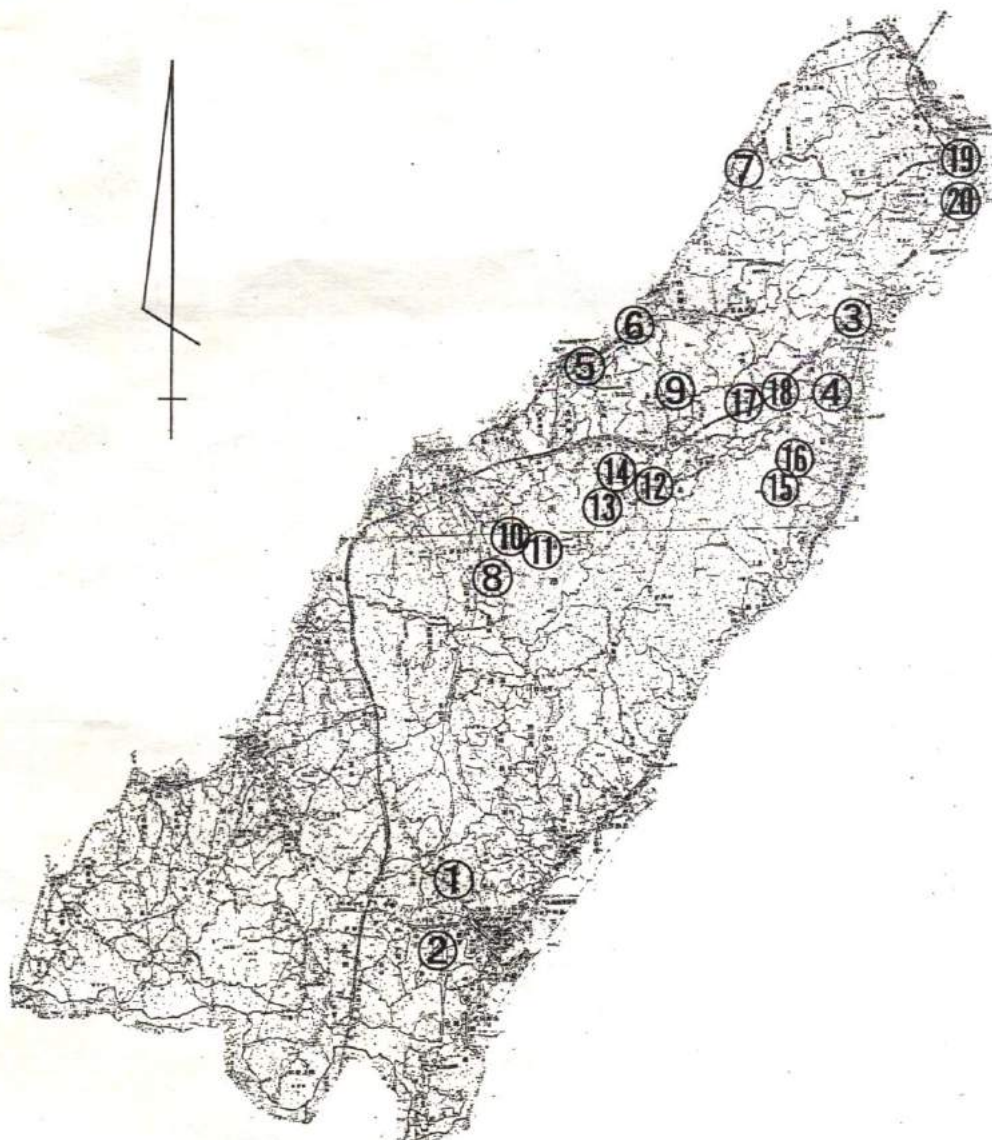


図1 淡路市の主な弥生遺跡の位置と動向

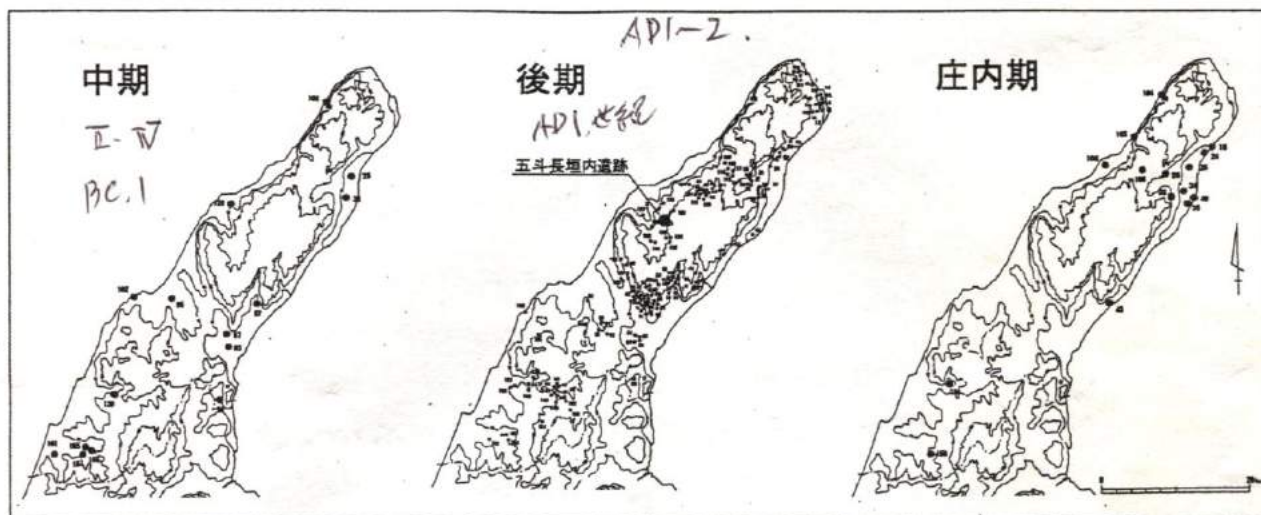


図2 淡路島北部の弥生遺跡の推移 (伊藤 2000 より)

五斗長垣内遺跡

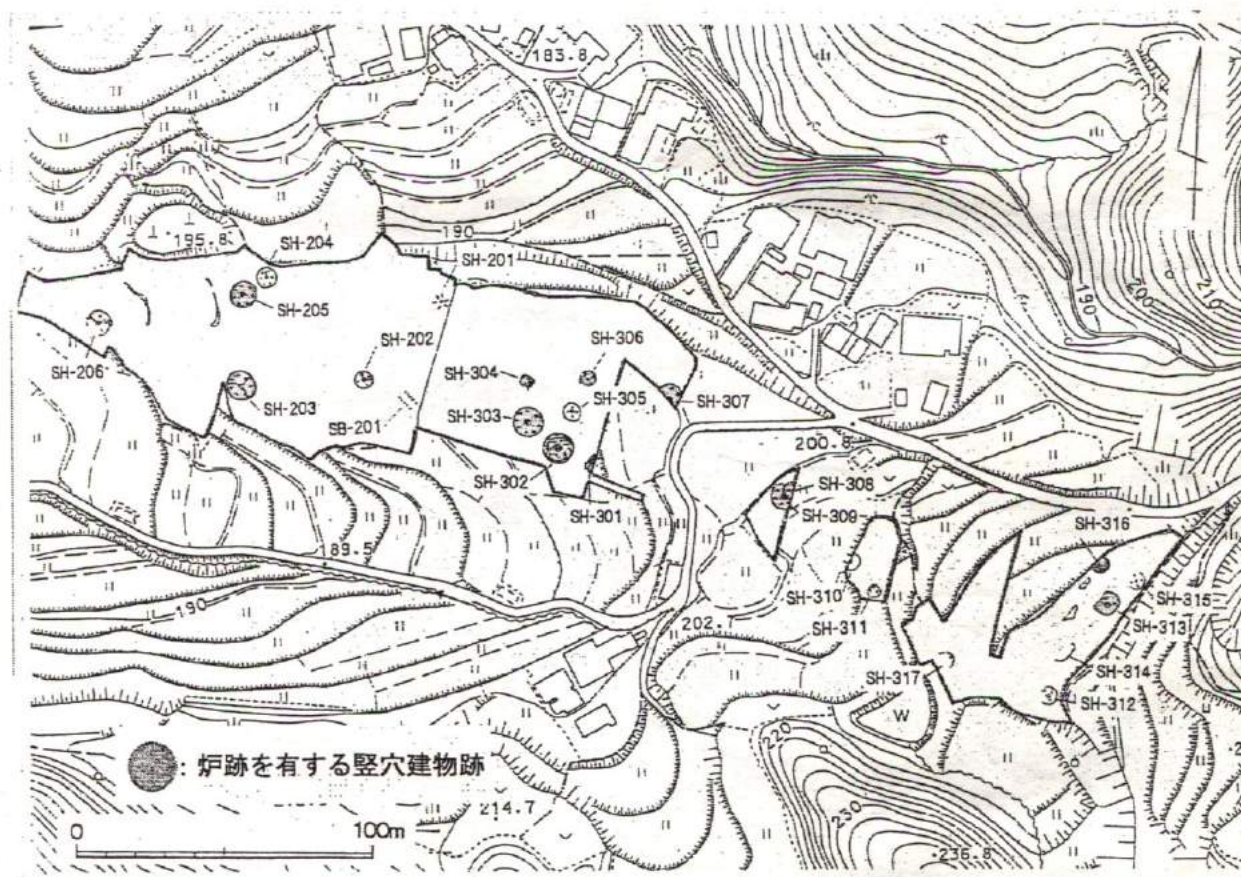


図3 竪穴建物跡検出状況と鍛冶工房の位置

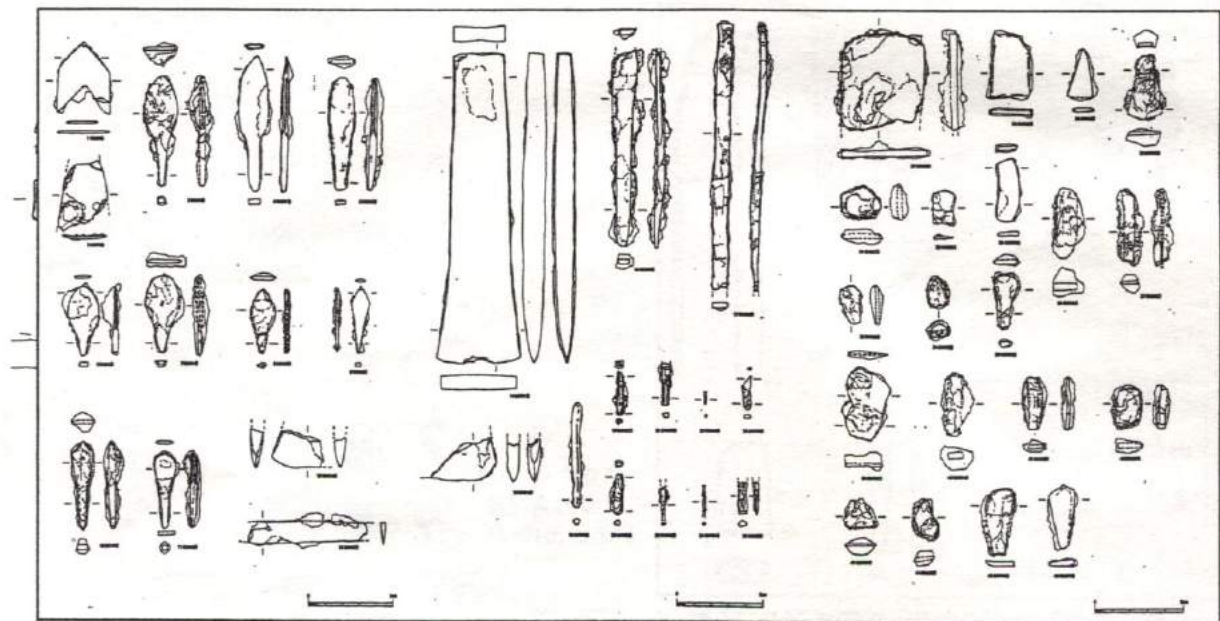


図4 鉄器実測図 (村上恭通氏実測)

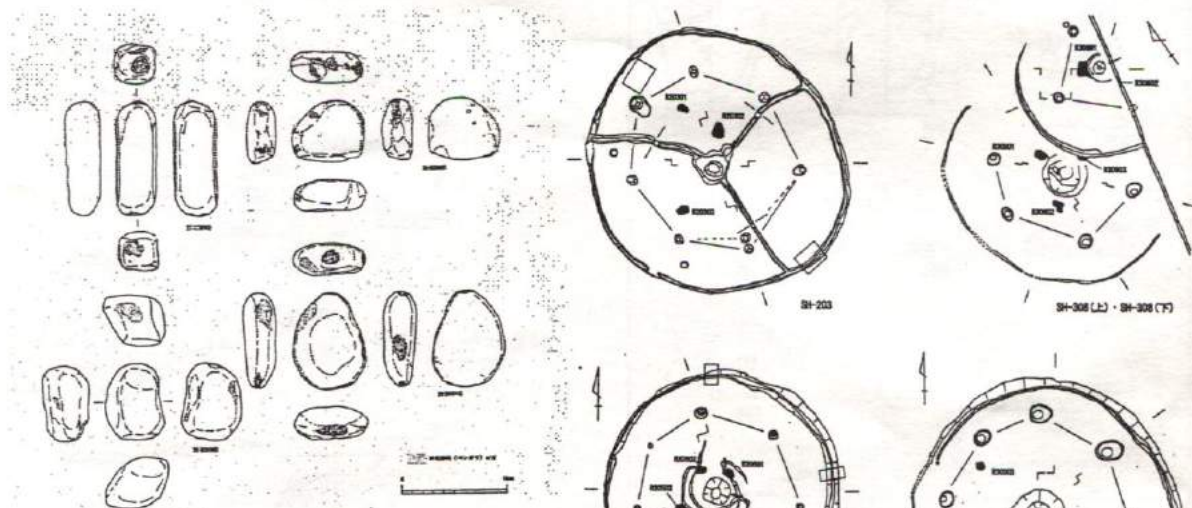


図6 ペンガラが付着した鉄石 (石英製)

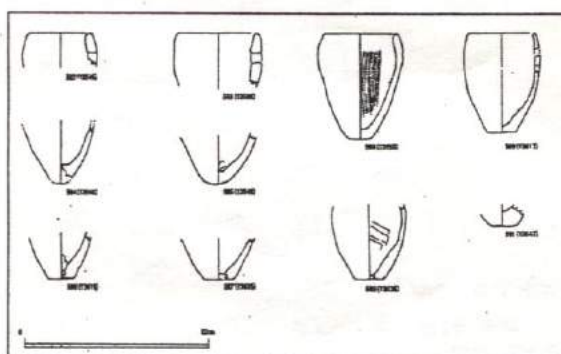


図7 イイダコ壺実測図

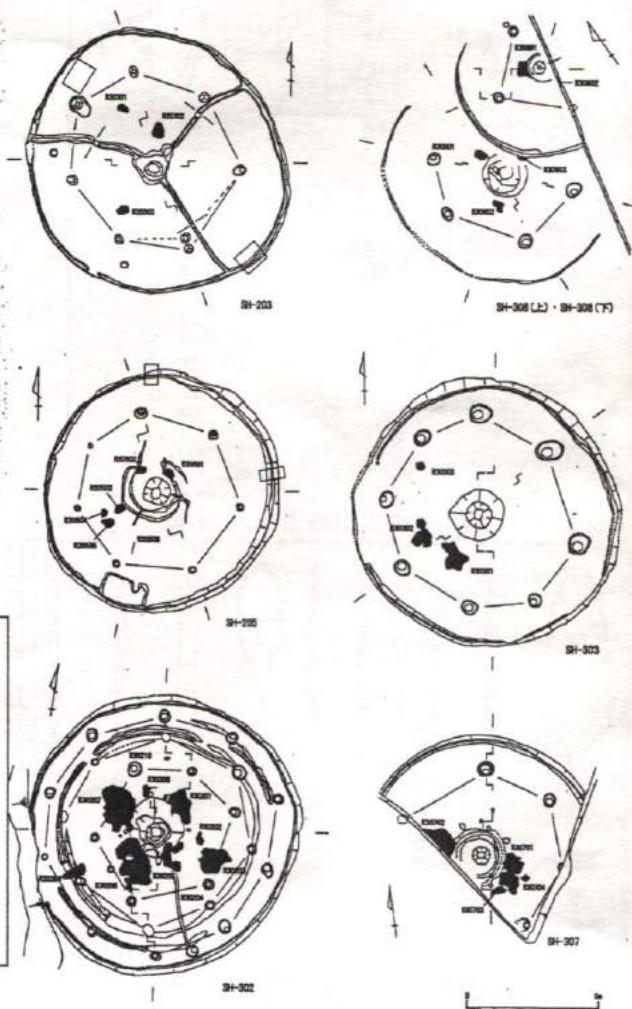


図5 大型工房建物平面図

舟木遺跡

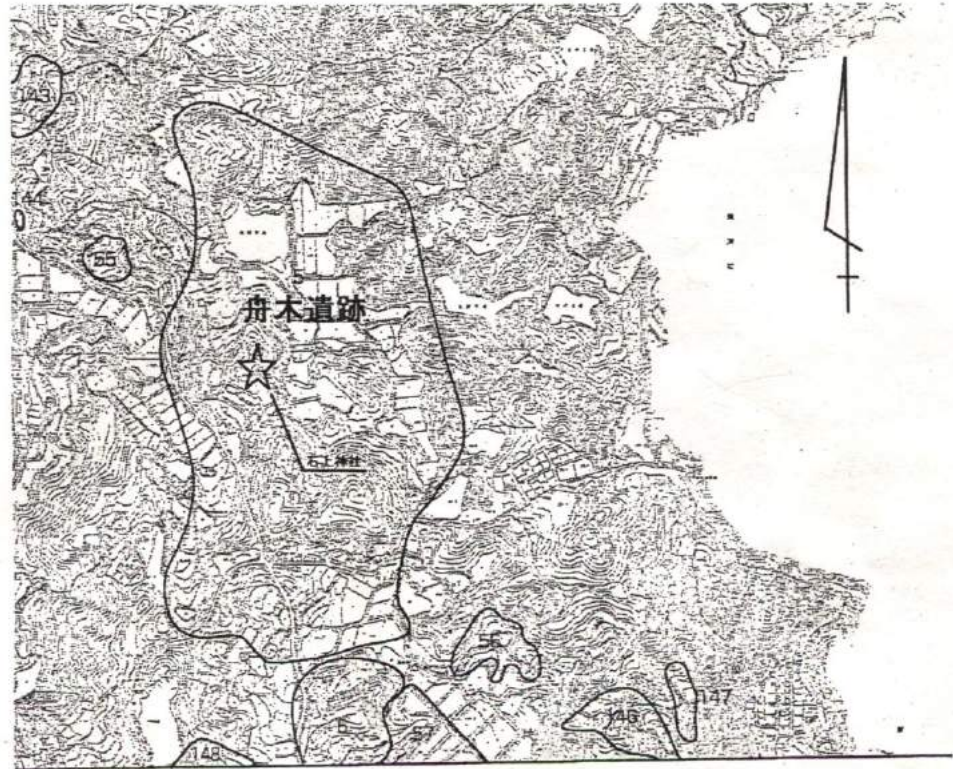


図8 舟木遺跡の範囲と石上神社の位置



図9 舟木遺跡の主な調査地 位置図

10-SH01・02 ●

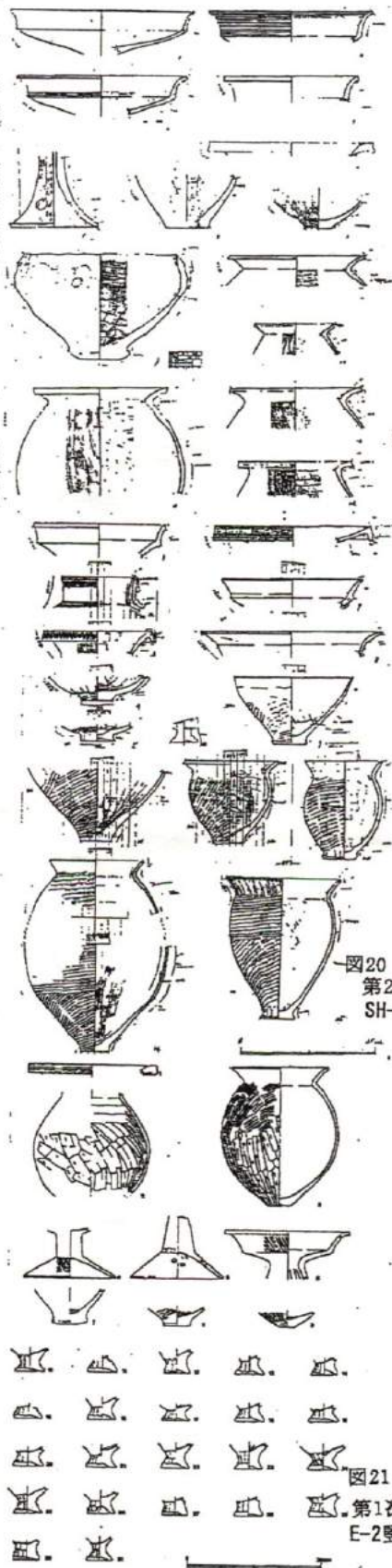


図19 舟木遺跡
第10次調査
SX-01出土土器

図20 舟木遺跡
第2次調査
SH-03出土土器

図21 舟木遺跡
第1次調査
E-2竪穴住居址出土

図10 舟木遺跡 出土土器

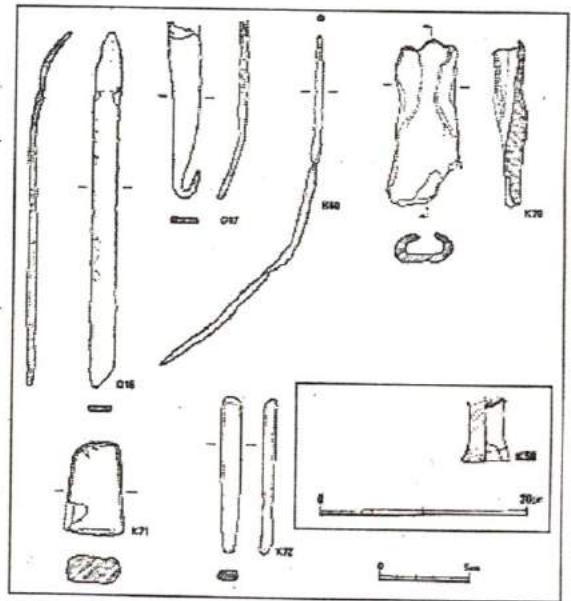


図11 久野々遺跡 出土鉄器及び製塩土器

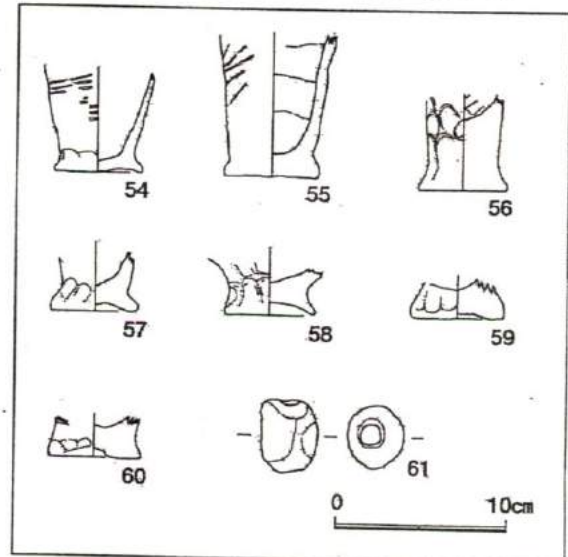


図12 大坂遺跡出土製塩土器

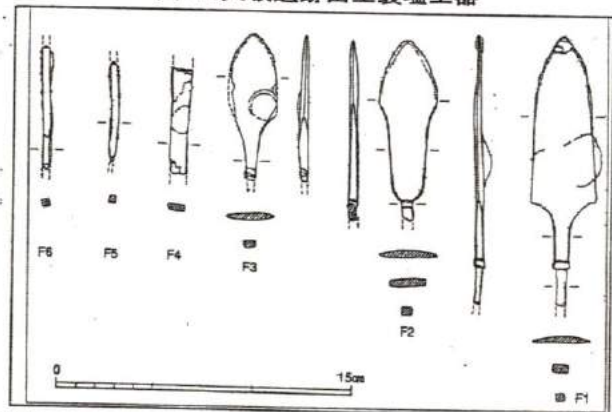


図13 塩壺西遺跡 出土鉄器